

本文は、2016年6月12日(日)にかざこし子どもの森公園(飯田市)で開催した「Viva Alps Music Fes!伊那谷発アースデイ」で行われたトークライブを文字起こししたものです。一部加筆修正しました。

10代～80代までの色んな分野で活躍中の6人が結集!これからの持続可能な生き方について語り合いました。

「伊那谷発!新しい暮らし方」

すぎうら なつね

杉浦夏音さん
伊那谷在住の高校生。

そね はら むねお

曾根原宗夫さん
舟下り船頭。天竜川鷲流峽復活プロジェクト代表。

きたざわ なな

北澤奈菜さん
市内の病院勤務。ボーカリスト。

まつしま のぶゆき

松島信幸さん
理学博士。南アルプス地質学第一人者。

よしわら つよし

吉原毅さん
城南信用金庫前理事長。現相談役。

つじ しんいち

辻信一さん
文化人類学者。明治学院大学教授。

辻 はい、皆様あらためてこんにちは。ビバ!南アルプス。これから早速、時間が限られていますので、今日は本当に素晴らしい方々のお話が伺えます。僕も楽しみにしています。早速、聞いていきましようか。僕は、辻信一と申しまして、文化人類学なんです、専門は、環境運動をずっとやっています。ナマケモノ倶楽部というスロームーブメント(※1)、スローというコンセプトにした運動をずっとやってきました。今日はナビゲーター的に司会をやらせてもらいます。それでは早速、松島先生の話をお伺いしたいと思います。

伊那谷の成り立ちについて

松島 えーと、わしは、教師をやっていたので、立たないと話ができない。(会場笑)南アルプスというのは、あれは流行語でありまして、正確には赤石山地と言います。つまり山が織り成している。日本の大河が、代表的なのが三つ流れている。こういう山は、日本にまたとはない。天竜川もその一つです。大井川もその一つです。富士川もその一つです。

それからもう一つ大きな問題は、皆さん「北アルプス」とか「中央アルプス」とか「南アルプス」とか言いますね。山登りする人たちはそれぞれ知っているで

しょうけれど、これみな性格は、違えます。そのうち一番大事なことは、山が出来てきた環境が全然違う。北アルプスというのは、もう古い山です。もう岩場だけになって肉がそぎ落ちちゃってる。だから、岩登りのメッカではありませんけど、そういう人たちには楽しみでしょうけれど、山の雰囲気を環境をというところになりますと、これはちょっともう古い山だ。

反対に、一番若い山があります。これは私たち伊那谷の西側にそびえる、中央アルプス。これはですね、例えば北アルプスは、7000万年位前に誕生したとします。この中央アルプスは、たった80万年前にしか…「たった」と言っても皆さんちょっとわからんでしょうけど、(地質学的に例えるなら)8秒前です。私たち人間とは桁が違うんです。赤石は500万年くらい前。そういうことですね、山の年齢は全部違うということがひとつ。

それから赤石つまり南アルプスというのは、どっちかという今も成長している山です。今成長している山は、日本全国では赤石がトップクラスなんです。国土地理院が、時々標高を訂正します。測量し直します。最近、標高を訂正した山は赤石に集中してました。中央アルプスにもいくつかありましたけど、北アルプスの主稜線にはひとつもありません。

もう、古い山ですから、私のように、一番盛んなのは…今言った、中央アルプスと南アルプスなんですが、これはどっちかという親子関係なんです。赤石が先に出来て、出来た力がどんどん、この伊那谷の真下の地殻を押して行ったら、押して行ったら中央アルプスだったんです。中央アルプスは、80万年…つまり(地質学的に例えるなら)たった8秒の間に約3000mまで、ぐーっと、上へ持ち上がっちゃったんです。だから親子関係なんです。ということは、太平洋側の力とアジア大陸側の力がぶつかっている大きく盛り上がりしてしまうという場所—その間に天竜川が流れて、伊那谷または伊那盆地という場所が出来て、私たちの住んでいるふるさどが、形成されました。

その伊那盆地というのは、他の盆地と比べて、全く違うということがわかります。まず平らではありません。飛行場はできませんね。戦争中に例の特攻隊の飛行場が伊那市に出来たんですが、これはたった一週間くらい…または1カ月くらいしか持ちませんでした。そういう場所が今でも動いています。どういふふうに動いているかというと、天竜川より東側、つまり竜東方面には、その当時竜東の土地を埋めた地層があります。その地層は西へ向かって中央アルプスに向かって、

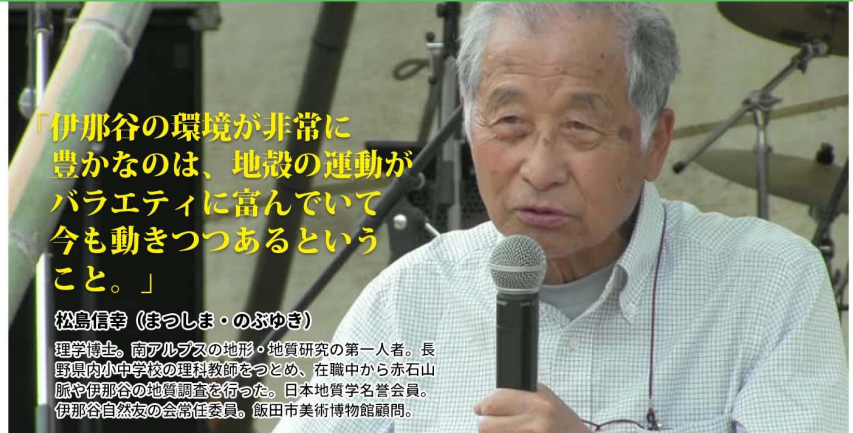
こう傾いています。ぐーっと傾いて行って、ぐっと、押し上げちゃったんです。そのため、いわゆる「伊那谷活断層帯」が伊那谷は集中しています。そういうことくらいは…(知ってほしい)。私たちの環境は非常に豊かであって、環境が素晴らしいということは、地殻の運動そのものが非常にバラエティに富んでいてしかも今も動きつつあるということです。

今も動く南アルプス

動いているということは、地震のことを思い出しますね。地震というのは、今、日本ではしょっちゅう多発しています。しかも多発する地震に対して地震学の世界は、事前予知というのは不可能です。将来的にいつ可能になるか、今のところわかっていません。ただ、一つ確実なのは、あと20年くらい先30年くらい先に南海トラフ地震が発生することです。これが発生すると熊本地震なんてもんじゃありません。東日本地震のレベルです。その影響は伊那谷にも起こります。がけが崩れたり、山が崩れたりします。そういうことに関して私たちは殆ど無知です。

私が一番感じているのは、皆さんは、自動車の道しか動いたことがないという哀れな人間になってしまった。これは良くないです。歩くことを知らない人間になってしまった。動物ではなくなったわけです。

だから、自然のことを知らない、そういうことのために現在この地域で何が起きているのでしょうか？この地域で一番問題なのは、動いている赤石、木曾、中央アルプス、南アルプスに(リニアの)トンネルで抜けるっていう。それは土木では素晴らしいけれど、何年持つんですか？永久に持つと思ってる人は手を挙げ



「伊那谷の環境が非常に豊かなのは、地殻の運動がバラエティに富んでいて今も動きつつあるということ。」

松島信幸(まつしま・のぶゆき)

理学博士。南アルプスの地形・地質研究の第一人者。長野県内小中学校の理科教師をつとめ、在職中から赤石山脈や伊那谷の地質調査を行った。日本地質学名誉会員。伊那谷自然友の会常任委員。飯田市美術館顧問。

てくださいよ。…誰もいませんね。よく持って100年だけど、南海トラフ地震が起きれば、赤石の中央アルプスの至る所で山地の崩壊が起きます。

そうすると、それはトンネルは地下だから関係ないと思うでしょうけど、実は地下だけを走ってるんじゃないですよ。例えば大鹿だったら、小渋川を超えてきます。あそこは、いかにも崩れる準備がもう出来ています。私がそう言っても皆さん信用しません、実際、もう10数年皆さん生きてくださいよ。それが見えますから。そういうような実際のことを素直に理解しないで有頂天になっているのは、私みたいに、戦争中に戦争の教育を受けた人間からすれば、同じことが今、起こっているように思います。

辻 さっき、動いてるってことと、だからこの地域が豊かなんだと伺いましたけど、そういう動いている地域と地震も含めて、ここの未来を考えると、何が大切なんだろうね。

松島 まず「豊かさ」、私一言でしゃべっちゃったんですが、この地域は「段丘」というような言い方が正しいんですが一扇状地とか、そう言うものが、ものすごく寄せ集まっているんですよ。こんな盆地、他にはありません。都会にはもちろ

んないでしょ。隣の松本盆地に行っただけでない。

そうするとそういう所が、植生豊かなんですよ。水が豊かなんですよ。全て人間にとって一番必要なものが豊かなんですよ。それでここに居る人たちが気づいていないんですよ。

私みたいな原始人間になってくれとは言わないけれど、もうちょっと、自然に親しめるような、または自分の周りや、自分の裏山や川や谷や、そういうところへ歩けるくらいの余裕と好奇心を持ってほしいですね。なんかそういう好奇心が…伊那谷の人たちは都会だけに憧れているわけではないでしょうが、やっぱり金儲けにちょっと疲れちゃうから、そういうことができないんじゃないかでしょうかと思っております。

辻 ありがとうございます。皆さん、これ地質学的な時間といいますけれど、何百万年とか、80万年とか出てきましたね。こういう時間、僕らあまり考えることがないですよ。80万年というと地質学的に言うと、ホントに最近の…8秒くらいの、そのくらいの時間ですね。

人類の歴史というのは、600万年、700万年と考えられてます。ホモサピエンスになって20万年なんて言われてますけど、そういう風に普段考えないような時間、僕は、それを「スロー」という言葉で表現してるんですけど。(現代は)いわゆるお金に支配された時間ばかりになってしまっている。その横に、石の時間、土の時間、森の時間、川の時間、そういう生き物たちの時間を置いてみなければいけない。そうでないと全てのもものが狂っていくんだということを改めて今のお話を聞いて思いました。

「植生、水、全て人間にとって一番必要なものが豊か。こんな盆地は他にはありません。伊那谷の豊かさに、ここに居る人たちが気付いていないんですよ。」



「お金に支配された時間。
その横に
石の時間、土の時間、
森の時間、川の時間、
生き物たちの時間を
置いてみなければ、
全てのものが狂っていく」

辻信一 (つじ・しんいち)

文化人類学者。環境運動家。明治学院大学国際学部
教員。スローライフ、GNH、キャンドルナイト等を
キーワードに環境=文化運動を進める一方、環境共
生型のスロー・ビジネスにも取り組む。東日本大震
災以後は「ポスト311を創る」キャンペーンを展開。



飯田に生まれ育って感じる良さ

辻 さて、それじゃあ若い方々を含めてお聞きしていきたいと思うんですけど、この伊那谷に暮らしてきて「伊那谷ってどういうところなのか」「その素晴らしさって何なのか」伺っていきたく思います。僕も外からやって来た者ですし、多くの方が移住されてきた方もいると思うんで、ここに生まれ育った者としてまず、お願いしたいと思います。

北澤 私は、生まれも育ちもずっと飯田で、高校生の時に風越高校に通っていたんですけども、高校に通いながら、伊那谷であるイベントのお手伝いをしたりとか、今日もステージで歌わせていただいたんですけど、歌を歌いながら活動しながら過ごしていく中で、進路を考えた時にほとんどの皆さんが、大学に行ったり専門学校に行ったりを選んで、飯田から出て行っちゃう人たちがほとんどだったんです。

私は、どうしても飯田から離れるということが考えられなくて、やっぱり、飯田に残りながらこういうイベントのお手伝いをしたりとか、自分の好きなことをしながら自分で生活していこうということを選んだんです。

でも私はここで、こういったトークライブをやった時に思ったんですけど、私がその時言った「飯田が大好き」というのは、ホントに見た目的なところだけの…朝起きたら青い空があって山の緑があって、ちょっと違う田んぼの緑があって、夕方になると山と空の間にすごく綺麗な夕暮れの景色が広がって、夜になればすごく綺麗な星があって…そういう暮らしがただ好きだっただけで、飯田にあって思ってたんです。

けど、そういう生活をしていく中で「何故飯田が好きなのか」と根本的に考えたりすることがあって。1番はやっぱり、飯田の風潮っていうんですかね…私は外に出たことがないので、ここにいる生活のことしかわからないんですけど、今日このイベントに沢山携わってくださる方も飯田の魅力を知って他の県から来たという方が、多分たくさんいらっしゃると思うんですけど、私たち、ずっと、飯田に住んでる者について、それが当たり前で、私はそれが大好きだと思っていて。私が思ってる当たり前を外の人が魅力的に思ってくれるというのは、すごくうれしいことだと思います。

私が思う魅力というのは…変わるのが嫌いなんだと思うんですよ、飯田の人って。変わっていくことが嫌いとか「昔からあることを大事にする」という意味で。自分たちの生活が変わらない中で、自分たちが過ごしていく中で、「何が大事なのかをちゃんとわかっているから、変わる必要がない」というのをわかりながら生活しているんだあとすごく感じました。あと、よく飯田の人と言うんですけど、特に話をしていると飯田って狭いなあってことが凄く多くて。そ

れて、人と人の距離が凄く近いからだと思うんですよ。で、色んな人がイベントを通して知り合っていく中で、「あの人だったらあの人知ってるよね」とかどンドン輪が広がっていくというのが、飯田の素敵どころだと暮らして思いました。

あと、ずっと思っていて変わらないのは…ホントに景色が綺麗で、さっき先生のお話を伺って、歴史のこととか考えたことなかったんですけど、長い歴史の中で作られてきたもので、綺麗に感じないわけがないなって。私たちの生活の中にその歴史あるんじゃないかって、その歴史の中に私たちの生活があるんだなあと思いつつ暮らしていくのはすごく大事なことだなと、さっきお話を聞いて思いました。実家伊那谷で暮らして思ったことです。

辻 変わらなさって素敵ですね。若い人からそういう言葉を聞くのは本当うれしいですね。ぼくらの世代は本当に、進化だとか進歩だとか成長だとかという言葉に囚われて、もう、一瞬も落ち着かないでどンドン物事を変えていくという、それに取りつかれた世代だったので。うれしいですね。

あともう一つは、自然とのつながりを感じて、それが大事なんだと、そこに価値を置いている若者がちゃんといるということにも感動しました。

それでは杉浦夏音さん。今日は蜜蜂として喋るんですか？

杉浦 今日は高校生として喋ります。私はいつも村営のバスで高校に通ってるんですけど、帰りは村営のバスなんで1時間に1本…じゃなくて1日2本しかなくて、朝と夕方の2本しかなくて、寝坊したらもう歩くしかないし、バスに乗り遅れたら、帰りも歩くんですけど、歩くと30分か40分くらい。行きは山道で、細



「飯田の人は、
昔から変わらない
生活の中で、
何が大事なのかを
ちゃんとわかっ
ている。」

北澤 奈菜 (きたざわ・なな)

中学生の頃より曲を作り始める。「MusicWave [fida]」の主催する音楽コンテスト「The Final 2005」で、高校生としては初となるグランプリ受賞。曲作りと歌唱力において大きな評価を得ている。

い道を熊が出そうなところに行くんですけど、最近は帰ってくる時もバスを待っている時間が嫌で歩いている方が楽しいし、早く帰れるってことでよく歩いて帰るようになったんですけど。

やっぱり、歩いて帰ると「あ、リンゴの時期なんだな」とか、すごい自然を見ながら歩いていけるのがすごいいいなと思って。あと帰ってる途中に、近所のおばちゃんとかが出てきて、「おかえり」「今日は暑かったから水でも飲んでいきな」と言ってくれて、どこに行っても知っている人がいて安心するというか、家族みたいな存在がたくさんおるといのがすごい幸せだし、ここで暮らしてここで生まれて、今までずっと、ホントそういうところが自慢できるところだなんて思って生きてきました。

水がおいしいというのが、本当に素晴らしいことだなと思って。お母さんとか仕事で東京に行った時とかついて行くんですけど、ホテルとか泊まって水で顔を洗うときも、「あれ、臭いな」とか思っちゃって「飲めないなあ」とか思ったりして。で、飯田に帰って水を飲むと「こんなにおいしかったんだ。」ってもう一回思ったりとか、ホントに豊かな水、自然。すごいんだなと思ったりします。

あと、お母さんが沖縄に行った時も野菜を育てる土があまり適してなくて。そういう話を聞いてたら、いつもうちで食べてる野菜がどれほどおいしいのかっていうのを改めて知って、ホントに幸せなところに生まれて住んでるんだなっていうのをいつも感じてます。

辻 自然欠乏症候群(※2)って言葉、知ってますか、皆さん？これはもう世界では重要な医学用語なんです。そういう病名は、お医者さんがふつうに使うように

「私たち船頭がいる
天竜川だからこそ、
下流の人たちに
いつまでもこの
状態の健康な水を
送り届けたい。」



曾根原宗夫 (そねはら・むねお)
天竜舟下りの企画室長&船頭。天竜川
鷺流峡復活プロジェクト代表。天竜い
かた祭り、竹筏の発案者。放置竹林を
活用し、地域資源の保全・活用、景観
形成、地域人材の育成、地域の産業活
性化に取り組んでいる。

なってるのに、日本ではなぜか本が出て
もすぐに消えちゃったりして。陰謀説は
僕は取らないですけど、なんかこれは、
おかしいって思いますね。あの、今僕ら
の抱えてる健康の問題をはじめとして多
くの問題が、自然と人間が切り離されて
いることにおそらく関係しているという
気がしますね。

それで会社によっては、病気の原因を
作って、それを直す薬で二重に儲けるみ
たいなという会社もあるようですし、と
いうわけで、今のお水の話とかコミュニ
ティの話とか、素敵ですね。

伊那谷の循環する自然エネルギー

曾根原 私、天竜舟下りで船頭をやっ
ている曾根原と言いまして。最近ちょく
ちょく新聞に取り上げられてますが、船
頭として出ているというより、「天竜川
鷺流峡復活プロジェクト(※3)」って
いう記事の方が、ここんところやたら
取り上げられていただいております。事
務では船頭。川の上で水の流れを
読んで、お客さんと共に天竜川を
下るってことをやってるんです
が、そういう仕事をやってい

るうちに1つ重要なことに気がついた
んです。

それは何かって言うと、水って未来
永劫循環し続ける。海に行ったものが
雲になって、また山で雨が降って、ど
こかでリセットする。ずっと永遠と回
り続ける水を、私たち船頭がいる天
竜川だからこそ、下流の人にいつま
でもこの健康な水を送り届けたいと。
「私たちの住んでる上流には船頭さん
がいたから、いい水がいつまでもと
うとうと流れてるんだな」と思われ
たい、そんなところから始まった
のが、天竜川鷺流峡復活プロジェクト
なんです。

実は私たちのコースには鷺流峡とい
う渓谷があるんです。昔は風光明媚で
秋の紅葉なんかきれいで、波しぶきも
立ち上がる、荒々しくて四季の景色も
自然に楽しめる渓谷だったんですけど、
気がついたらものすごい竹の浸食が
始まりましてね。竹がどんどん、暗
闇を作っていく。竹藪砂漠なんて、私
は言ってるんですけど。広葉樹が
みんな枯れて立ち枯れて倒れていく。
最終的には紅葉する木がなくなって
その挙句の果てに、暗くなって薄汚
れて、ものすごいゴミの不法投棄の
メッカになった。

私たちは最初の頃、舟で行って、岸
に舟をつけてゴミを拾ってたんです
けど、ひどい時にはゴミを拾っている
横からビンがはげると、そういう状況
になって。このままではイタチごっ
こだな、なんかもっといい根本的な
何かを…と思った時に初めて、「あ、
竹を伐採しよう！もっと地面に光を
差し込ませよう、もともと生えてた
木々を元気にさせよう」ということ
で、最初私たち船頭で、川側から竹
を切って。すごい、切ったんですよ。

(それで)バンバン出てきた竹が会社
の駐車場で山になってる姿を見て、こ



「おいしい水、野菜。
ホントに幸せなところに
生まれて住んでるんだな」

杉浦夏音 (すぎうら・なつね)
伊那谷在住の高校生。DANCE MUSIC
MOVIE「だれもしらないみづはちの
のがたり」で蜜蜂の一匹を演じる。

でストップさせたらゴミだよなと思ったんです。渓谷に光が当たって綺麗になってきた代わりに今度は駐車場が日陰になってはつまらない、何か活用方法がないかなって。「そうだ、私たちは船頭だ」天竜舟下りのルーツは筏流しなんですよね。江戸時代、徳川家康が角倉了以という人に、天竜の材がものすごく良質だから遠州まで出せと、それを今度は江戸城まで海運で運んで江戸城を建てると…というところがつながってきているのが、私たちの天竜舟下りなんです。



竹は浮くので、「よし、竹で筏を組もう！」と竹を組んでガンガン遊んでたものすごく面白い。そのうち噂を聞いた人が「俺も乗りたい」「じゃあ、乗ろう乗ろう」と。それで遊んでるうちに、竹って乾燥してくると割れてきますよね。浮力がなくなって沈みだしちゃう。これは筏としての生命は終わり…ということで、今日も外に出してある竹ボイラー。あれと出会ったので「よし、これからは燃料化だ」—割れた竹は、乾燥してるのでどんどん燃える。それで、お湯を作ってお風呂を沸かして。舟下りって基本的に天竜川で遊ぶので濡れますよね。ラフティングとか筏とか。そうすると戻ってくると、お客さんたちに風呂に入ってもらおう。

その循環が回れば回るほど、渓谷が綺麗になる。人々も遊ぶ、私達も楽しむ、渓谷がきれいになる、紅葉が復活する、落ち葉が落ちる、土が肥える、水がきれいになる—この循環をぐるぐる回る。

それを船頭だけだとエリアが広すぎて賄いきれないということで、「よし、地域の人たちといっしょにやろう！」私たちは下側から見た時に、上に住んでいる地域の人たちは、ゴミの不法投棄に頭を悩ませてるんです。「一緒にやりましょうよ」と言うことで、一緒に始めたんです。そうすると地域の人たちのマンパワーはすごいです。想像した以上にどんど

ん、渓谷の整備が進んできました。55年ぶりに温泉宿まで出てきた。またこれも一つの展開になってストーリー性も生まれてきた。

あと、ちょうどこの間始めたんですけど、筍が過ぎて伸びてきた穂先、あれでメンマを作る。そうすると地産地消でメンマも自分たちで食べられる。遊んで、食べて、温まって—今まで邪魔者だった部分が、そこまで私たちの生活にプラスになってくる。なんとか切ってよ切ってよと言ってた人たちのところがどんどん地面に光が射してくる。これは、「まさに三方良し」と…言うようなことをどんどん仕掛けるようになったのが最近で、竹宵祭りとか、キャンドルナイトとか、こういう環境系からも、いろいろ声をかけていただくようになったんです。

天竜舟下りがやってるんだよ—一生懸命PRするけど、なかなかお客様の数が増えないので、ちょっと今日はこういう格好をさせていただいて、環境系のことも頑張ってるけど、ちょっと応援してねと言うのを含ませてください（笑）



辻 さっき竹ボイラーを見せていただいてびっくりしたんですけど、こういうのを欲しがってる地域が日本中にあるんじゃないかと思うんですが、反応はありますか？

曾根原 実はこういった活動をしていることによって、去年は高知県の四万十市、京都の亀岡市、福岡県の久留米市で今までの事例と動かしてきたノウハウを教えてほしいと言われて話をしてきましたけど、やっぱりどこも西へ行けば行くほど、竹林がものすごい。

辻 ものすごいって、皆さんご存知と思うけど何がどうすぐくて何が問題なんですか？

曾根原 昨年1月にちょうど九州に行った時、大雪の日にバッティングしまして…自動車道が全部閉鎖で、福岡から熊本へ下道で移動してたんですけど、ずっと山に生えてるのは全部、竹。木がほとん

どない。竹が山の形の輪郭を作っちゃってるんで、酔うほどに気持ち悪くなる、竹酔いしちゃう、それほど過密です。ちょっと手遅れじゃないかと思うくらい、恐ろしい。

辻 生態系としては非常に貧しい。

曾根原 まさに竹林砂漠というか、おっかないですね。その中でも頑張ってる方々もいらっしゃるんです。それをうまく地域のコミュニティの財布の中身に合わせて、身の丈に合った暮らしの中で、再生エネルギーとして活用していくのが非常に重要だと思ってるんで、気がついてもらって、動くことからまずスタートさせないと、大きくやろうと思ってもできないと思う。

竹は良質のバイオマスエネルギー

辻 竹3本で灯油18L…?

曾根原 灯油18Lの燃焼カロリーと、直径根元で大体11cmくらい、長さ15~16mの竹3本を燃やしての熱カロリーがほぼ同じです。

辻 これはびっくりしましたね。

曾根原 それほど、竹ってものはものすごく良質のバイオマスエネルギー(※4)なんです。ただ温度上昇が早すぎるがために、昔のおばあちゃんたちは、「かまどに、竹突っ込むな」と。かまどがドーンと割れちゃうからと。

「灯油18Lの燃焼カロリーと、竹3本を燃やしての熱カロリーは、ほぼ同じです。」



灯油18L = 竹3本!

グローバルからローカルへ

辻 地域経済、地域発のビジネスの話から地域のローカル経済って言うところに今話が来てますけれど、少しここで、吉原さんと一緒に文脈を広げて考えてみたいと思うんですよ。この地域の新しい

暮らし方、生き方、経済というものを考えていく時に、ちょっともう少しこれを世界規模で見ると、大きな転換が世界中で起こっているという風に思っています。吉原さんはあの原発の…3.11の後にすぐ話題の人でしたけども、実はですね、やっぱり今日1番お話しを伺いたいのは、地域の金融、地域の経済というものがこれからの時代の主流になってくるんじゃないか。そういう世界的ムーブメントの中心人物と注目してるんですよ。ということでこの地域の未来を考えていく上で、どこが肝心なところかというのをお話させていただきたいと思います。

吉原 改めまして、吉原と申します。信用金庫というのは地域の金融機関です。今日ローカルコミュニティ(※5)の素晴らしいお話をいっぱいきかせていただきましたけども、経済ってもともと、グローバルってなかなかうまくいかないものなんです。地域の中で、さっき色々なお話がありましたけれど、人と人とのつながり、そして地域の自然との関わりの中で、「これやったら面白いんじゃないかな」「これやったら、みんな幸せになるんじゃないかな」「これやったらうまくいかないからこれは変えよう」こういうようなフィードバック関係をクローズドなローカルなコミュニティの中で、人間関係も自然環境も含めてやっていけば、公害問題も起きないし、鬱病とか人間疎外も起きないということなんです。ただ、それがお金というものを発明して、海外でも通用するようになったのが<グローバルエコノミー(※6)>。約200年前から、「世界からお金を集めちゃえば自分だけ豊かになるんじゃないか」とそういう風潮が、グローバルエコノミーというものが生まれてしまいました。その結果、より多くの場所・世界とお金でもってやりとりすれば、もっともお金を集められるという動きがだんだん止まらなくなってしまった。これが約200年前、産業革命が進んだ頃の話です。

その頃経済学というものも色々発達してきたんですけど、アダム・スミス(※7)という経済学の一番初めの先生が、実は「こういうお金ばかりが暴走するような会社の在り方は良くない」と、一番初めに実は言ってるんですよ。これを経済学者あるいはエコノミストと言われる人が、すごく読み飛ばしてるんですよ。ですから、色々な公害問題とか次の世代

「お金だけでなく、みんなの幸せを考えなければ企業も社会もうまく発展しない。ローカルコミュニティの経済の繋がりを大事にしよう」

吉原 毅 (よしわら・つよし)

城南信用金庫前理事長、現相談役。2.11以降、被災地支援を精力的に行う。相互扶助のための協同組織金融機関である信用金庫の原点回帰を経営方針に掲げると同時に、原発に頼らない安心できる社会を目指して、講演活動など積極的に発言・活動を行う。

にツケを残しちゃう原発問題とか…いきなり原発に入っちゃって申し訳ないんですけど、あるいは色々な問題で、後に公害問題が起きてても関係ない、外国のことだから関係ない、地方のことだから関係ない、次の次の世代のことだから関係ない、という風な風潮がまさに自分本位になっちゃってる。これが大きな問題だと思っています。

これは別に、例えば、パナソニックを作った松下幸之助さんという立派な経営者の方がいますよね。経営の神様と言われる方ですけども、あの方も言ってるんですよ。お金というものを考える経営者は目先しか考えないし、将来のことを考えられない。そして視野が狭くなっちゃう。もっともっと、皆の幸せを考えなければ、企業も経営も社会もうまく発展しないよ、という話をしてるんですよ。スティーブ・ジョブズというアップルを作った人も実は、「お金ばかりを考えてる経営者で成功した人を私は見たことがない」と言ってます。だから全うな人はみんなそう思ってるんですよ。ごく当たり前の考えなんです。だから昔から多くの方がそう言っている。

だから、ローカルコミュニティの経済の繋がりを大事にしよう。その中で、お金というものをまず循環させることを考えよう。そういうことをお手伝いするのが、このお近くで言えば飯田信用金庫さん。お仲間ですけど、信用金庫が持つ地域金融の大きな役割です。

ただもう1つ、今先生がおっしゃったように、グローバルな動きというのはどんどんそれを、「そんなことを言わないで、自分1人だけうまくやれば、世界の向こうと貿易すると大儲けするよ」という形が出てきます。だけど、それって罠が多いんですよ。特に金融の世界は、罠がいっぱいあるんですよ。ですから、お金

とか海外との資源とのやりとりも含めてですね、ここから先は危ないということを知った人たちが、そのローカルコミュニティを守んなきゃいけない。グローバルをうまく手なづけて、ローカルを守る。

そういう意味で、この伊那谷では都会の方から移り住んだ方がいっぱいいらっしゃるって、そういう方々は世界のグローバルの危なさをご存知ですよ。また魅力もご存知だと思うんです。そういったものをうまくローカルを発展させる上です。ある時は防波堤、ある時は地域をより一層面白くするための触媒として活躍する。そういったことができれば、この地域はもっともっと幸せいっぱいあふれる地域になるんじゃないかと思えます。と思って、今日はお話させていただきました。

地域経済とエネルギー

辻 さて、ありがとうございます。どうでしょうね、さっきボイラーの話がありましたけど、特に原発の関係もあって、エネルギーの問題ですね。これと地域の経済とのつながり、どういう風に考えた方がいいのか。なかなかエネルギーって、中央の大型のプロジェクトを持ってという発想から抜け切れない人が多いと思うんですけど。

吉原 やりすぎなんですよ。

辻 ちょっと、この地域とこれからのエネルギー、どんな風に考えた方がいいと思いますか？

吉原 昔は、石炭・石油…特に石油エネルギーが安くてですね、海外から持ってきた方が便利だということで、どんどん臨海部を中心に巨大プロジェクトがスタートしたんですけど、やはり、不安定なんです。今、石油価格が大幅に上がった

り下がったり、その度に皆さん、四苦八苦してる。もっと安定的に地域の一さっき、竹の話もありましたけれど一里山とか地域の、地元の自然を使っていければ地域環境も良くなるわけです。そういう点で今、非常に技術革新の見直しが行われています。ですから、ドイツでもデンマークでも、実は地産地消エネルギー、バイオマス、風力、ソーラーパネル…自然環境に邪魔をしないような、自然環境とマッチしたソーラーパネルがどんどん出来てきている。その結果、原発って世界に400基くらいあるんですけど、動いてるのが約1割くらい。ずっと横ばい。それに対して、太陽光は500基に伸びたんです。この数年間で一気に伸びたんです。原発を抜いたんです。

辻 500基というのは…

吉原 500ギガですね。原発に換算すると500基（500ギガ）。（太陽光が原発を）追い越しちゃった。日本では、自然エネルギーなんて全然ダメダメと、何故か経産省のレポートに書いてるんですけど、世界の常識としてとっくに抜かれてるんです。

そういうようなところで考えて見直してみると、日本って、さっきの竹もありましたけれど、間伐材があって、太陽光があって、風力があって、海があって、地熱が世界で2番目にあって、そして農業や観光業やそういったものと環境がうまくマッチした、自然エネルギーのビジネスがこれからどんどん発展する余地があるんですね。

辻 バイオマスが豊かで…

吉原 はい、それこそまさに、地域が発

「日本は自然エネルギーのビジネスがどんどん発展する余地がある。それこそまさに、地域が発展する大きな起爆剤になるんです。」

展する大きな起爆剤になるんです。そういう可能性を地域のいろんな試みの中で進んでいくと、これから面白くなるんじゃないかと思います。原発、全然いいんです。例えば、さっきも話したんですけど、日本の農地って460万haあるんですよ。今、農地アメリカに負けちゃうとか、TPPで負けちゃうって言ってますけど、460万haのうち、もしソーラー・シェアリング(※8)で3割の太陽光を電気に回していただいて下に作物を作る、これをソーラー・シェアリングと言いますが、これをやりますと…

辻 ちょっと、もうちょっとここ詳しく説明してほしいんです。これすごいな～と僕思ってるんですけど、これ農地ですよね。

吉原 農地が460万ha。

辻 農地に太陽光？

吉原 そう、鉄パイプを組んで、ヒサシみたいに約3分の1のお日様の光を太陽光で頂くという、そういう細長い太陽光のパネルがあるんです。これ農家の方が自分でキットを買って作れるから、工事費タダでものすごく安い。これがもし日本全国の農地にあると、原発どのくらい分になるか…1840基分なんです。すごいでしょ。460万×400kw×1840基分のギガの原発分の電気が出来ちゃうってことは…全部じゃなくなったっていい、1割だっていい、3%だっていいそのくらいの電気が出来ちゃうくらい、日本

の豊かな自然には、素晴らしいポテンシャル(可能性)があると思いますね。

新しい時代 価値観の変換

辻 吉原さんがすごいのは、喋ってるだけじゃなくて実際に始まっているわけですね。

吉原 今、全国の信用金庫も自然エネルギーをバックアップしてるんですよ。東北でも関東でも、そういうローカルなエネルギーをみんなで応援して…そしてそれに「面白いじゃないか」という話がさっき(曾根原さんから)ありましたけど、「面白い」という気持ちが無ければ経済って発展しないんですよ。原発って面白くないですよ。ただ、お金もらうだけです。自分たちでコントロールして、次から次へアイデアが浮かんで、次から次へ産業が生まれてくるのが、まさに経済の発展ということです。今、そういうことをやっていますけど、飯田でも是非、頑張っていたきたいと思います。

辻 ありがとうございます。ここに2人の先生がいらっしゃるので、中心に聞いていきます。お若い方々は、地域の良さをアピールしてくれましたけれど、とはいえどうでしょう。お友達の中には、この地域を出て行くというのが当たり前という人もまだまだ多いと思うんですよ。

僕、横浜で今、大学で教えてますが、地域から沢山の子どもたちが来て、やっぱり外に出るよというのを、おじいちゃんおばあちゃん、親からずっと小さいころから言われて、地域に残るなんて考えたことがないという人が、結構いるんですね。

ただ、この10年位その流れが大きく変わりつつある。地域に対する思いがもっと強くなりつつあると思うんだけど。とはいえ、ここから名古屋、東京、都会へ…という流れも、まだまだ強い。その先に何かあるのかと言えば、僕の教えてるところは国際学科と言いまして…なんとなくグローバルな感じなんです。そこに受ける人たちの中には「やはりグローバルでしょ、これからは。今はグローバルにつながるしかないよね」って。こういう思いがまだまだ強いんですね。だ

「自分たちでコントロールして、次から次へとアイデアが浮かんで、次から次へと産業が生まれてくるのがまさに経済の発展ということです。」



伊那谷発アースデイでのマーケット

「一回外に出て行って飯田以外のこともわかった上で、やっぱり飯田いいよなって思って帰って来てくれる子たちが、すごくこれからの力になってくるんじゃないかと思います。」

から僕はそういう学部において一生懸命、「いかにグローバル経済が危険か」ってそういう話ばかりしてるんですが、そのへんどうですか？

北澤 外に出て行く人たちが多いというのはもちろんだと思いますし、多分ご両親、ご家族の方からしても、一回外に出てきてほしいという思いがあるというのはわかるんですね。私は実際、ここにずっといるので、飯田はこうだけど県外はこうなんだ、世界に出たらどうなんだというのは想像でしかわからないですけど、でもやっぱりここにいて素晴らしいと、もっとここに住んでいることを自信持ってほしいって言うか…「飯田なんか」と思って子たちが出て行くのはさびしいですよ。

飯田が大好きだから一回外に出て行って、飯田以外のこともわかった上で「ああ、やっぱり飯田いいよな」って思って帰って来てくれる子たちが、すごくこれからの力になってくるんじゃないかと思っています。

飯田で育った子たちで、そういうの知らずに都会を出て行く子たちがいるというのが残念だと思って。飯田は若者もすごいし、大人もすごいって土地だと思う。大人が子どもたちにそういうのを知る機会を作ってあげる活動をしてあげることがすごく有難いと思うし。そういうのを素直に聞く体制が出来ている、心が育っている若者がすごく多いと思うので、自分たちが感化して、グローバルでも、自分の故郷はどこかって認識した上で、外に出て、また力をつけて帰って来るのが、これからは大事なのかなと感じました。

辻 若い人たちがここから出て行きたいって、親、祖父母から、ある意味刷り込まれてきたわけですね。そういう若者たちに我々は何を言ってあげられるのかな、と。

松島 簡単に言うと、教育が悪いということが根底にあります。つまり高校、大学、誰がどこに入学したか、これがその評価につながります。そういう伝統がこの地域にあったんです。でも最近は壊れてるんじゃないでしょうか。

辻 変わってきてる。

松島 それともうひとつは、この地域で生きていくためには、企業とか会社、官庁でもいい、そういう自分の経済を保証されるとところに寄りかからないと生きていけない…そういう仕組みが厳然としてありましたよね。そういう仕組みが壊れてくれればうれしい。信用金庫は比較的この地域ではがんばってますよね。ですからそういう意味においては、地域の人を助けていただけるような発想と実行力が欲しいですね。どうしても百姓だけじゃ食っていけないことは事実ですから。

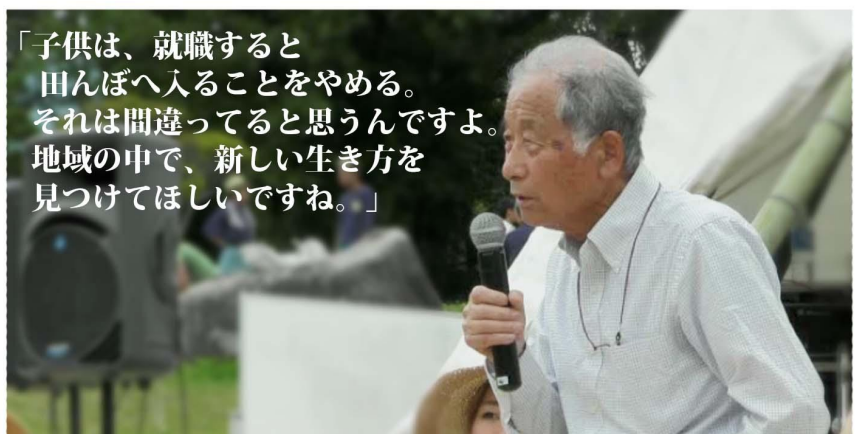
必ず親は、年をとっても汗水流して田んぼに入ってます。子どもは田んぼへ入ることをやめて、就職すると…飯田で1番優秀な企業に就職すると、その会社の担当が来て、親に「どんな農繁期でも子どもに手伝いをさせてくれるな」と言うんですよ。それは間違ってると思うんですよ。でも今はそういう世界になっている。あまりにも経済優先主義。それはこの地域の中で、新しい生き方を見つけてほしいですね。

辻 僕のゼミでは、必ず田んぼやるんですよ。つい最近、田植えしたとこなんですけど。最初僕は就職して、15~20年前には親からクレームが来ましたよ。「うちの子をやっと国際学部に入れてこれからグローバルに活躍させようと思って、見たらゼミの方で田んぼやらされてる。」って。もう最近はさすがにそんなの無いです。もう、みんな喜んで、親御さんたちも喜んでくれます。いかがでしょう吉原さん。

吉原 教育、価値の問題、今そういうことが見直されてますし、そういうことの中にすごく価値観・新しい世界があると思います。その中で「自然との関わり」というのがありますが、自然環境を壊すとそういうことができなくなっちゃうという不可逆的な問題があります。

さっき、松島先生が(南)アルプスって全然違うんだ。どんどん背が高くなるんだ。筈みたいに超高速で伸びるんだ…超高速ってリニアみたいだなという話があったんですけど…途中で山が伸びたら、リニアが折れ曲がっちゃうのって話ですよ。あるいはトンネルが途中でずれたら、どうするのか？私、これからはリニアが出来て、乗る時怖いなあと思ったんですけど…そうすると20年、30年で先生大丈夫なんですか？時速500kmじゃ、止まらないですよ、急には。ドイツでも新幹線脱線して、激突して大勢死んだじゃないですか、100人くらい。

だから、リニアも安全性は大丈夫か、慎重に考えてこれからもやっていただきたいというのが1つある。それからもっと話し合っ、ちゃんといろんな先生の話聞いて分析してやっていけばいいものが出来るかもしれないけど、やっぱり原発もそうなんですけど、一度決めちゃうと問答無用になるんですよ。「とにかくやる」みたいになって、後から「ごめんなさい」と言われても間に合わないこといっぱいあるんで、やるという方向で考えるにしても、本当に大丈夫なのか、たとえば、トラックがいっぱい工事現場に来るって大変だという話を聞いたんですけど、あまりトラックが来ないように、ゆっくり作ればいいじゃないか、環境に問題がないように。そういうことを含め



「子供は、就職すると田んぼへ入ることをやめる。それは間違ってると思うんですよ。地域の中で、新しい生き方を見つけてほしいですね。」

「一度決めちゃうと問答無用になって、後からごめんなさいと言われても、間に合わないことがいっぱいある。コミュニティとか、環境とか、人類の長い観点から、本当の意味で経済経営を考える社会になってほしいですね」

て、もっと話し合いをする余地があるんじゃないですかね。

どの世界も、一度お金で決めると、お金儲けお金儲け、法律法律で、みんなの幸せを考えないで、かえって経済全体に及ぼすマイナスの公害問題とかツケを残すとか。そういう、コミュニティとか環境とか人類の長い観点からの、本当の意味で、経済経営を考える社会になってほしいですね。

地球は一つの生き物

「今、世界人口72億人のうち 半分以上が都会に住んでいる。 人類史的に言って大変な事」

辻 さっき、都会から帰ってきて、水がおいしい、今の話を都会の子たちに聞かせてあげたいと思ってました。あと、自信をもってもらいたいということがありましたけど、やっぱり田舎、地方というのは、徹底的に、自信を奪われてきたんだと思うんですよ。

今、世界は72億人くらいになりましたかね。半分以上が、都会に住んでいるですよ。半分以上都市人口です。これわかります？人類史的に言ったら大変なことなんです。これもさっきの地質学的な時間じゃないけど、人類史の長い時間から考えると、もう、とてつもない想像もできないようなとんでもない事が起きているわけです。実はこのことが、近い将来、どういう結果をもたらすか、誰も予想できない、予想していない。考えようともしていない。

そういう都会に向けて色んな原料を供給したり、食べ物を供給したりする、そういう場所として田舎というのを見なし

て、そして自然界というのを単なる資源と見なして…こういう人間の傲慢さみたいなものがもう行き詰まっているということとは色んな兆候で見とれますよね。その最たるものが気候そのものが大きく変動しているということです。

今日は、本当に、地質学の話から始まって、想像しにくいような長い時間のスパンを横に置きながら、僕らの現在そして未来を考えてみるという素晴らしい時間を持たんじゃないかなと思います。皆さん、あらためて、この地域の素晴らしさの話が出ました。まず、空気、水、土。

皆さん、空気って何でできているか、学校で習ったこと覚えてますか？ほとんど窒素ですよ。で、そこに何故か酸素があるわけです。これは大変なことなんです、空気中に酸素があるってことは。かつてなかったんですから、地球に一地球上の大気の中に。それを作り出し

たのは、実は生き物たちだってことはご存知ですよ。光合成という作用でもって酸素が作られる。僕らの知る限り、何百万年の間、ちょうど20.9%、大体21%なんです、酸素が。これ、22%になるとダメなんですよ。森が燃え始めるそうです。丁度、この今、この酸素のカクテルが丁度いいんですよ。

そして、温度でしょ。温度がどうも、空気中の二酸化炭素に関係してるってこともわかってきた。どのくらいあるか知ってますか、二酸化炭素？たった0.035%ですからね。350ppm。少なくとも僕の知ってる限り、南極の氷なんかで調べてみると、大体0.035%で来てるんですよ、安定して。それがこの最近、数十年の間に増え始めて、一昨年、ハワイの観測所で0.04%…つまり400ppmになっちゃったわけ。これが、地球上の温度が今上がり始めているということが関係していると、95%の科学者たちが言っている仮説なんですよ。おそらくそうだという風に言われている。0.035とか0.04くらいの二酸化炭素が、実はこの地球上の大気の温度をずっと一定に保っていたということなんです。それに人間が手を付け始めちゃったということなんです。すると、誰がこれを調節してるんだっていう話ですよ。これが、有名なガイアの仮説、ガイア理論(※9)というものです。

つまり、僕らを含めて全ての生き物、そして地球上にいる全てのものが、バラバラに生きてるんじゃないくて、一番底のところではみんなが一体になって、この地球という一つの生命を構成してるんじ

「僕らを含めて全ての生き物、そして、地球上にいる全てのものが、一番底のところではみんなが一体になって、この地球という一つの生命を構成してるんじゃないか。＜地球というの是一個の生き物＞—これが、現在の地球物理学、最先端の科学の考え方なんですよ。」



「グローバルからローカルに。
 ゴールは反対側ってことになったら、地域こそ最先端。
 実はここに、足元に必要なもの全てがある。
 それをベースにして未来を作っていこうじゃないか。」

ゃないか。＜地球というのは一つの生き物＞—これが現在の地球物理学といいましょうか、最先端の科学の考え方なんです。実はこのことって考えてみると、多くの伝統社会でひいおじいちゃん・ひいおばあちゃんが普通に考えてたこと。この世の中のすべてのものが繋がっていて、その繋がりのおかげで僕たちが生きていくということ。

これ聞いた事ないですか？色んな物語や神話、おじいちゃんおばあちゃんの話の中に、実はずーっと、生き続けてきたこと。あるいは多くの宗教が僕たちに教えて来てくれたことに、今、まさにやっとな科学が追いつきつつあるということ。そんなことなんだろうと思います。

今日の話では是非、注目したいのは「グローバル」と「ローカル」ということなんです。僕たちは何か、ローカルを犠牲にして…グローバルって、つまり何かというと、世界を一つの平面にして全部バリアを外して、自由に経済競争やろうよということ。だからって、別に中小企業ができるわけじゃない。それをやるのは大企業。世界規模の巨大企業が、自由に自分たちの利益を最大限にしている。そういうために、この世界のルールを全部変えようというのが、簡単にいえばグローバル経済だと思っんです。そしていつの間にか、グローバル経済につながる事だけが、我々の未来だと思いはじめた。だからみんな都会に行っただけですよ。大都会でしか、グローバルなゲームには参加できない、なかなか。ということで、ローカルからグローバルへっという風に来たんだと思っんです。

僕は環境運動家ですけど、結論から言

うと、この環境問題とか地球温暖化を何とかするには、道は一つしかない。これは今までの流れを逆転することです。

「グローバルからローカル」に—これ以外に道はない。どんなにグローバル経済を手直ししても、僕はもうだめだと思っ。ということで、そういうふうにと考えると皆さんは、今までは東京の方に向いたり、名古屋の方に向いたり、後ろの方から走ってみたい。

でも今、レースは変わったんですよ。今度は反対向きに。ゴールは反対側ってことになったら、地域こそ、最先端。一番先頭に走ってるのは地域、地域の中でも、昔はどん詰まりって言われた場所。だから、リニアってのがつなげればね…なんて思っちゃうんだけど、これからはどん詰まりじゃないかな。「地域へと転換する」というふうにと僕たちがマインドセット、固定観念を変えて、発想を変えた時に、実はここに、足元に、必要なもの全てがある。それをベースにして、未来を作っっていこうじゃないか。

今日は、いろんな年齢の方がいらっしゃいますよね。特に子どもたち、幼い子どもたちがたくさんいます。やはり、目先のことで、自分たちだけお金が儲かればいいや」という都会型の経済の発想じゃなくて、もうそろそろ、子どもたち、そのまた子どもたち—インディアンは、「7世代先の人たちのことを考えて今、何をするか決めなさい」(※10)という教えがあると言われているんです。7世代って言うのは200年以上ですから、大変かもしれないけど、少なくともどうですか皆さん、自分の子ども、孫…そのくらのことは考えましようよ。

ここから、経済をもう一回、組み立て直す。そういう発想の転換にこそ未来があるような気がします。

「懐かしい未来」という言葉があるのをご存知でしょうか。これ実は僕の友人でヘレナ・ノーバーク＝ホッジ(※11)という人が書いた本のタイトルです。実は元々は英語で「Ancient Futures (直訳すると“古代的未來”)」。すごく変な表現でしょう？これを訳した人すごいなと思っんですけど、詩人ですね。これを日本語で「懐かしい未来」と訳したんです。この言葉、僕は大好きなんです。

今日、若い人たちが語ってくれたことはまさに懐かしい未来なんです。都会に住んでると、僕らの世代、未来の予想図をよく描かされたんですよ。どうのを描いてたかという、高層ビルがワッと建っっていて、前にすごい立体交差、空になんか飛んでたりして。出来てる物は、プラスチックとか鉄とかガラスとかですよ。今考えると、何でそんなのを描いてたのかなと思っただけ…その未来にあなたが暮らしたいですか？ってことなんです。僕らの世代って、誰も暮らしたくもない未来を描いて来て、今に至るんじゃないか。未だに、僕らの世代の人たち、色んなところでリーダーになってる人たちもそんな未来ばかりを描いてる。その未来に、自分の孫たちに暮らして欲しいか、ということは考えられないんじゃないか。

是非、皆さん、ホントに懐かしい未来—水を飲んだら「ああ水がおいしいな」暮らして「今日も生きてるな」と。さっき(話にありましたが)夕暮れになると、空と大地の間に素晴らしい夕暮れの風景が広がる。一体これ以上の何が必要なんだろうと思っ。ということで、今日は素晴らしいお話をありがとうございました。(拍手) 以上

文責：遠野ミドリ&森田真弓



トークライブ中の用語解説

※1 スロームーブメント

slow movement

利益や効率ばかり優先するあまり、壊してきた人と人、人と自然とのつながりを、もう一度、むすびなおす。そして、大好きな地球を、次の世代に手渡すこと。そのための、暮らし、仕事、文化を、丁寧に、でもダイナミックにつくる作業。→詳細はナマケモノ倶楽部のHPへ。

※2 自然欠乏障害症候群

Nature Deficit Disorder

2005年、アメリカのリチャード・ルーブによって出版された「あなたの子どもに自然が足りない」の中で提唱された考え方。自然と遠ざかったことによって、現代の子どもたちの中に見られる精神的不安定や、それに伴う様々な行動障害の症状。

※3 天竜川鷺流峡復活プロジェクト

竜丘地域自治会、天竜舟下りが連携して立ち上げた活動組織で、地域の有志を募り、志を共にする仲間を増やしながら、放置竹林の伐採作業、その竹を活用した環境教育や体験活動を展開し、地域資源の保全・活用、景観形成、地域人材の育成、地域の産業活性化を目指すしている。

※4 バイオマスエネルギー

biomass energy

CO₂の発生が少ない自然エネルギーで、古来から薪や炭のように原始的な形で既に身近に利用されている。エネルギーになるバイオマスの種類としては木材（木くず）、海草、生ゴミ、紙、動物の死骸、糞尿、プランクトンなどの有機物。今日では、地球温暖化防止や循環型社会の構築に向けて、新たな各種技術による活用が可能になり、化石燃料に代わる新たなエネルギー源として期待されている。

※5 ローカルコミュニティ

local community = 地域社会。

※6 グローバルエコノミー

global economy

自国内という狭い範囲でなく、経済は世界的規模に広げてみるべきという考え方。WTO（世界貿易機関）が経済のグローバル化を押し進めている。その反面、グローバル経済の主役である多国籍企業のあくなき利潤追求のため、貧しい人々が犠牲にされることの弊害が指摘され、市民レベルで反対の声も大きい。

※7 アダム・スミス Adam Smith

18世紀のイギリスの道徳学者、哲学者、経済学者。経済学の父と呼ばれ、近代経済学の始まりの人である。代表作「国富論」等。

※8 ソーラーシェアリング

Solar Sharing

農地に支柱を立てて上部空間に太陽光発電設備等の発電設備を設置し、農業と発電事業を同時に行うこと。農林水産省では、この発電設備を「営農型発電設備」と呼んでいる。

※9 ガイア理論 Gaia theory

地球上において、大気や地殻などの自然環境と動植物などの生物が相互に影響し合うことで、地球という惑星が一つの大きな生命体のように活動していると見なす理論。英国の科学者ラブロックが提唱した。

※10 イロコイ族の格言 Iroquois Maxim

「どんなことも7世代先まで考えて決めなければならぬ」

“In our every deliberation, we must consider the impact of our decisions on the next seven generations.”

※11 ヘレナ・ノーバーク・ホッジ

Helena Norberg-Hodge

大企業のための経済のグローバル化に対してローカリゼーションを提唱する。

著書に『いよいよローカルの時代』、映画に『幸せの経済学』など。

トークライブ出演者関係HP

○ナマケモノ倶楽部

<http://www.sloth.gr.jp/>

○伊那谷自然友の会

<http://inadanishizen.grupo.jp/>

○天竜舟下り株式会社

<http://www.gokai-tenryu.com/>

○天竜川鷺流峡復活プロジェクト

<https://ja-jp.facebook.com/fukkatugaryuukyuo/>

○城南信用金庫

<http://www.jsbank.co.jp/>

○Dance Musical Movie

だれもしらないみつばちのものがたり

<http://fop-jp.net/p/bee-dance-movie/>VIVA ALPS MUSIC FES!
伊那谷発アースデイって？

南アルプスがユネスコエコパークに登録されてちょうど2周年記念日にあたる6月12日、伊那谷や南アルプスの豊かな自然を大切に思う仲間たちによって開催されたアースデイイベントです。

南アルプスとその周辺地域の自然の類まれな豊かさやその中で育まれた文化などが世界的に高く評価されていることを知ってもらうことで、自然に恵まれた伊那谷の環境のすばらしさにみんなが気づききっかけになってほしいという願いから企画しました。

音楽・出店・展示・ワークショップ・トークライブ等を通じて、参加者のそれぞれが、自然の中での気持ちの良い暮らし、伊那谷の魅力とそこで生きることの素晴らしさを表現しました。

子どもからお年寄りまでさまざまな方々に安心して楽しんでもらうことができ、これからの生き方についてビジョンを共有できた1日になったと思います。

ご協力、ご来場くださった皆さま、ありがとうございました！

ACTION FOR THE
MINAMI-ALPS
BIOSPHERE RESERVE

私たちは南アルプスの自然環境保護活動に賛同しています。



イベントの報告、最新情報はこちら

伊那谷発アースデイ



(公式サイト) *PCからのみご覧いただけます。

vivaalpsmusicfes.wixsite.com/home

(facebookページ)

www.facebook.com/vivaalpsmusicfes/



☆公式HPに追加しました
イベント報告書(PDF)
写真コンテスト結果
会場への忘れ物情報
トークライブ全文
地球の名言集 など



■主催 Viva Alps Music Fes!伊那谷発アースデイ実行委員会

■後援 長野県、長野県教育委員会、飯田市、飯田市教育委員会、伊那市、大鹿村、南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会、南アルプス世界自然遺産登録山梨県連絡協議会、南信州新聞社、信濃毎日新聞社、中日新聞社、飯田FM放送、SBC長野放送

■協力 IIDA WAVE、子どもの森セカンドスクール

■お問合せ 090-6499-2978 (森田)